

新連載スタート (漢方処方解説 6 回)

吉村吉博先生による漢方処方解説を、今号より半年間・6回連載いたします。各回1処方をテーマに、中医学的視野・日本漢方的視野で薬の性質を解明して行きます（今号は8・9ページ）。病の発生原因、どう変化するのかを含め、漢方の基礎的事象に触れながらの役立つ処方解説です。

【掲載予定：3月 越婢加朮湯、4月 柴胡疏肝湯、5月 玄武湯（真武湯）、6月 排膿散及湯】

よしむら よしひろ

吉村 吉博 先生〔薬学博士〕



【履歴】 星薬科大学助教授、日本薬科大学漢方薬学科教授を経て日本統合医療学園 理事長・学長に至る。JICA 専門家としてビルマ国製薬開発センターにて技術指導、アメリカ合衆国疾病対策予防センター（CDC）にて研究。現在、星薬科大学、東京農業大学栄養科学科、東京家政大学の非常勤講師、漢方吉村薬局（埼玉・富士見市）・漢方健康堂（東京・池袋）の顧問

【著書】 「予防は最大の治療なり」、「中医漢方医学の基礎」、「中医漢方医学の生薬と処方」、「中医漢方医学の治療と症例」など
※著書購入は日本統合医療学園への連絡か（TEL 03-6914-3322）、アマゾンにて

【論文】 活性酸素（酸化ストレス）、活性水（機能水）、環境ホルモン、漢方・中医学に関する研究論文多数

先生からのひとこと：漢方の知識をしっかりと身につける事で、早期治療・対応への道筋を見つける事が出来ます。薬剤師・登録販売者など資格者の先生方に、この処方解説を参考にして頂ければと思います。

薬草 歳時記

白沢（ハクタク）

人面ながら身は牛馬、九眼有角の恐ろしげな容姿、これが白沢（ハクタク）です。子らは流行のアニメ妖怪に夢中ですが、白沢は妖かしの類ではなく、中国起源の言葉を解し人に益をもたらす伝説の獣。麒麟（キリン）・鳳凰（ホウオウ）と同じく、徳の高い為政者がいる時に姿を現す存在とされます。黄帝内経（中国最古の医学書）で知られる黄帝が東方巡行した際に白沢と出会い病魔・災害を防ぐ手立てを教えられたとされ、白沢に関するものを手許に置けば病を退けると信じられるなど、人の健康長寿の願いと深くつながる者です。

江戸時代には白沢の絵を旅のお守りとしたり、護符がわりに用いました。幕末は流行病が周期的に人々を襲い、コレラ（1822・58・59・62年流行）・麻疹（1824・36・59・62年流行）・カゼ（1831・35・50・54・57年流行）・風疹（1836年流行）・痘瘡（1846年流行）などで多くの方が亡くなりました。1853年ペリー来航・1867年大政奉還が起こる、激動の時代の出来事です。

愛しい人を突然の病で失う、世にこれ程の悲しみは無いと思います。くすり博物館の展示室入口に据えられた白沢像、今も病魔を退けるため睨みを利かせています。

《幕府小石川療養所の医師見習い保元登、婚約者だった天野源伯の娘ちぐさとの和解の場面》

「ちぐささんですね」と登は静かな声で呼びかけた、「お子さんができたと聞きましたが、達者ですか」「はい」とちぐさは喉声で低く答えた、「このあいだ無事に麻疹を済ませました」「そうですか」と登は云った、「おめにはかかりませんが、御主人によりしく仰って下さい」「それでいい」と天野源伯がちぐさに云った、「もうさがっておいで」ちぐさは辞儀をして去った。



赤ひげ診療譚 山本周五郎

(2015年1月上旬 岐阜川島くすり博物館にて撮影)

処方解説・参苓白朮散

吉村 吉博 先生

東京都豊島区 日本統合医療学園・健康堂

【効 能】

補脾健脾、止瀉、理気化湿

本方は脾胃気虚の下痢に対する代表処方である。詳細には脾気虚・脾湿盛・胃陰虚（脾陰）に対応した処方である。

脾胃気虚によって生じる病態は、消化機能低下の状態で、さらに吸収障害による消化管内の水分過剰にともない泥状～水様便あるいは不消化便を呈するものである。また、水分の排泄が障害されると浮腫を来す。

【出 典】

和剤局方：北宋代の大観年間（1107～1110年）に初版が編纂された全5巻、297処方を収めた医薬品の処方集

【参苓白朮散の組成】



※四君子湯を構成するグループ（ニンジン・ビャクジュツ・ブクリョウ・カンゾウ）



【処方解説】

基本は四君子湯（人參・白朮・茯苓・炙甘草＋生姜・大棗）で、補脾（胃腸の機能改善）の山藥・蓮子・薏苡仁・白扁豆と、理氣（気の流れをよくすることにより機能を回復）の陳皮・縮砂および引経薬（特定の経脈に到達させる薬物）の桔梗を配合したものである。

人參が益氣健脾（全身の代謝亢進、胃腸機能亢進）、白朮・茯苓・薏苡仁・白扁豆が健脾・利水滲湿（消化機能亢進・腸管内や組織中の水分の血中へ引き込んで利尿を促進）、山藥が補脾（栄養成分を含み滋養強壮や消化促進）、蓮子が収澀止瀉（収斂作用による止瀉）、桔梗が上行への引経薬で、提気作用（清気を上昇させることによって下痢を抑制する）、陳皮・縮砂が理気・止嘔作用（胃腸の蠕動運動を強め、悪心嘔吐を止める）、炙甘草が諸薬の調和（胃腸と整えたり、構成生薬の副作用を軽減）にそれぞれ働くので、湿盛による泥状～水様便に有効である。

また、甘性である山薬・蓮子・白扁豆・薏苡仁は脾陰を滋潤し、脾気の健運を補助する（甘性は脾胃を滋養して、結果として胃腸機能を高める）。

【中医适应症】

- ①脾胃気虚：食欲不振、食べると腹が脹る、顔色が萎黄（黄色）、元気がない、疲れやすい。舌質は淡から紅で胖、舌苔が少ないあるいは剥落、脈は細数・無力。
- ②胃内停水：水分の代謝障害により水が胃内に停留してポチャポチャと鳴る。軟便または不消化下痢、浮腫（脾湿盛）が生じる。
- ③胃陰虚：口乾、唇の乾燥、手足の熱感、皮膚乾燥が生じる。

【日本漢方の適応症】

体力虚弱で、 胃腸が弱く、瘦せて顔色が悪く、食欲がなく下痢が続く傾向

↓ ↓

虚実：虚証 随伴症状（気血水・臓腑弁証）：脾気虚（胃腸虚弱・食欲なし）・脾虚湿盛（下痢）

次の諸症：食欲不振、慢性下痢、病後の体力低下、疲労倦怠、消化不良、慢性胃腸炎

主症狀（病名・症候）：食欲不振、胃腸炎、下痢

【類似処方】※太字は参苓白朮散と共通生薬

☆六君子湯（半夏・陳皮・生姜・人參・大棗・炙甘草・白朮・茯苓）

四君子湯に半夏・陳皮を加えたもので、參苓白朮散と比較して止瀉薬がないので下痢には弱い、半夏が含まれているので嘔吐には適している。

【合 方】

情緒の変動により体調が悪化するときは、加味逍遙散など、悪心嘔吐が強いときは、半夏厚朴湯或いは小半夏加茯苓湯など、腹痛があるときには小建中湯或いは芍薬甘草湯を合方する。

組成	人 参	白 朮	茯 苓	甘 草	山 藥	蓮 肉	薏苡仁	白扁豆	陳 皮	縮 砂	桔 梗
薬性	甘温	苦甘温	甘淡平	甘温	甘微温	甘渋平	甘淡涼	甘微温	辛苦温	辛温	苦辛平
分類	補 気	利水滲湿		調 和	補気健脾		祛 湿		理 気		引 経
効能	補気健脾	健脾燥湿	健脾滲湿	補気止痛	補気健脾 潤肺強壯	健脾止瀉 安神補腎	利水滲湿 健脾止瀉	健 胃 解暑止瀉	理気健脾 化 痰	理気化湿 安 胎	止咳祛痰 排 膿
	四君子湯（健脾益気）										
	補 脾 益 気 ・ 滲 湿 和 胃										
適応症状	脾 虚 湿 盛										
	食欲不振、元気がない、声が小さい、軟便・下痢、恶心嘔吐、浮腫、淡紅胖舌、舌苔剥落、脈細数・無力										
病機	慢性病→脾気虚→脾の主運化の失調→脾虚湿盛→水湿の運化が不足→水湿内盛→軟便・下痢（泥状便） ↓ 脾胃気虚→胃の主受納の失調→食欲減退・元気がない → →血虚→胃陰虚→口乾 └胃の主降濁の失調→胃気阻滯→恶心嘔吐										
疾患	慢性胃腸炎、潰瘍性大腸炎、慢性脾炎、慢性腎炎、アトピー性皮膚炎など										